

親子の新たな言語に

こそだてシップが手話教室

大船渡

NPO法人・こそだてシップ（伊藤怜子理事長）は毎週月曜、大船渡市盛町のシヨッピングセンター「サン・リア」内に開設している「すくすくルーム」で、子育てをしている親向けの手話教室を行っている。親子のコミュニケーションを支援する取り組みで、すくすくルームの利用者が「新たな言語」の習得に励んでいる。

習いたいのが、子育てで夜の教室やサークルに通えない」という母親からの声があきつかけ。手話は、聴覚障がいがある人との会話の手段のほか、子どもと身振り手振りで意思を伝え合う「ベビーサイン」にも応用できることから、昨年4月から教室をスタートさせた。

講師を務めているのは、同法人スタッフで看護師の佐々木寿子さん（60）。佐々木さんは大船渡手話サークル「こだま」にも所属している。16日は親子5組ほどが手話教室に参加。教室では、日常で使うあいさつや自己紹介、感情表現などを練習した。



でなく、表情も大事」
「日常の中にちよっとでも手話を取り入れ、子どもとの会話のツールにしてももらえれば」と伝えていた。すくすくルームは妊婦から未就学児をもつ

家族を対象に、毎週水曜日以外の午前10時から午後4時まで開放。手話教室は、月曜日の午前11時から行っている。

同法人では現在、出産を控えた母親へおむつや哺乳瓶などが入った「おめでたセット」をプレゼントしている。サン・リアにはマタニティマークが目印の専用駐車場も設けられており、利用を呼びかけている。

問い合わせは同法人（Tel.47・56889）へ。

佐々木さん（右端）と一緒に手話を習う母親ら「サン・リア」

1歳児に絵本贈呈

本年度から
住田町教委

ブックスタート事業

引き続き、読み聞かせボランティア・どこの菊池ユウ子代表(72)が絵本の読み聞かせを行うとともに、乳児期における本のふれあいの大切さなどをアドバイス。「子育て

は赤ちゃんから幼児、小学生とつながっていくもの。心の交流を図る一つとして活用してほしい」と期待を込めた。

25日に1歳の誕生日を迎える吉田脩人ちゃん

住田町教育委員会は本年度から、ブックスタート事業として1歳児を対象に絵本を贈る取り組みを始めた。初回の贈呈は18日に町保健福祉センターでの1歳児相談に合わせて行われ、受け取った親たちは絵本を生かしたふれあいなどに意欲を見せていた。

本に親しみながら親子のコミュニケーション充実につなげてもらおうと事業化。この日の1歳児相談には、親子6組が参加した。

町教委の松田英明次長は事業趣旨などを説明しながら「親子で楽しい時間を」とあいさつ。親子1組ずつに絵本1冊を手渡した。

絵本を受け取る子どもたち。住田町(電子新聞に別写真あり)



んとともに訪れた母の智巳さん(37)。「世田米」は「一緒に読んで、言葉をまねしてもらったりしながら過ごしたい。(小学1年生の)お姉ちゃんにも読んでもらいたい、音読の練習にもなれば」と話し、笑顔を見せていた。